

# 食道癌術後の胸腔ドレーン早期抜去について

## の臨床的検討

### 研究対象：

2011年12月より2013年12月までに国立がん研究センター東病院にて胸部食道扁平上皮がんに対し、食道切除再建の手術を受けた患者さんを対象とします。

### 研究の概要：

わが国において、食道がんは治療が難しいがんの一つです。治療方法の一つとして、手術治療がありますが、身体的精神的負担は非常に大きなものであります。今回の研究では、食道がん手術前後の診療録を用いて胸腔ドレーンを早期抜去できるかどうかを検討し、手術後の身体的精神的負担の軽減を目指すものです。

### 研究の意義：

食道がん手術のみならず、胸部外科手術では手術後に胸腔ドレーンを留置しています。その目的は胸水ドレナージによる無気肺予防、術後出血、気胸、縫合不全の早期発見早期治療など多岐にわたります。しかし、留置するチューブの種類や留置期間、ドレーン抜去の基準に関して現時点では、明確な指針はないのが現状です。この研究で、食道切除術後の胸腔ドレーン管理、ドレーン抜去時期を明らかにすることです。これにより、長期にわたるドレーン留置を防ぐことができ、肉体的精神的負担を軽減できるのではないかと考えます。

### 目的：

今回の研究では、食道がん患者の周術期管理において胸腔ドレーンの抜去時期を早期に抜去できるかどうかを検討し、その安全性を明らかにすることを目的とします。

### 方法：

電子カルテより、対象期間内に食道がんに対して食道切除再建を行った患者さんにおいて、臨床データを集計します。そのデータより、胸腔ドレ

ーン排液量、抜去時期、周術期合併症とドレーン抜去時期の関係について  
遡及的に検討します。

**個人情報保護に関する配慮：**

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない  
やり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別のため、新たに番号を  
用いて管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さま等からのご  
希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつで  
も次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究での利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

FAX 04-7131-9960 / TEL 04-7133-1111 (内線 91379)

研究事務局 国立がん研究センター東病院 食道外科 佐藤 琢爾

研究代表者 国立がん研究センター東病院 食道外科 大幸 宏幸